

[003] 生活体験学習研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/8992>

出版情報：生活体験学習研究. 3, 2003-03-01. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会 事務局報告

I 日本生活体験学習学会理事会会議日程

第1回	2002年5月4日	九州大学教育学部社会教育研究室
第2回	6月30日	九州大学教育学部社会教育研究室
第3回	8月11日	九州大学教育学部社会教育研究室
第4回	10月12日	庄内町生活体験学校
第5回	11月23日	福岡県立社会教育総合センター
第6回	12月21日	九州大学教育学部社会教育研究室
第7回	1月26日	九州大学教育学部社会教育研究室
第8回	3月1日	福岡県立社会教育総合センター

II 会員実数 2003年2月3日現在

個人会員	152名
法人会員	4名

III これまでの活動

* 第3回日本生活体験学習学会研究大会 開催

2002年2月23日

於 福岡県立社会教育総合センター

* 第4回生活体験学習実践交流会 開催

2002年10月12日

於 福岡県庄内町生活体験学校

* 学会通信の発行

第10号 2001年12月16日発行

第11号 2002年4月25日発行

第12号 2002年7月8日発行

第13号 2002年9月12日発行

第14号 2002年11月10日発行

第15号 2002年12月18日発行

* 学会誌の発刊

第1号 2001年1月1日発刊

第2号 2002年7月26日発刊

IV 理事会での協議事項および決定事項についての報告

なお、以下の原稿は「日本生活体験学習学会通信」第11号～15号に掲載しております「事務局からのお知らせ」によるものです。

(1) 学会総会における決定事項

(通信第11号掲載)

2002年2月23日(土)に日本生活体験学習学会第3回総会が開かれました。総会では出席者から林伸子会員(福岡県伊田幼稚園)と桑原広治会員(熊本県五木北小学校)が議長として選出され、議長の議事進行に従い進められました。

まず、事務局長の南里悦史会員からこれまでの学会活動報告と会務報告がなされ、予算案が提出されました。それを受けて担当の松田武雄会員によって監査報告がなされ、拍手によって承認されました。

また、学会研究紀要および年報発行について、紀要編集委員会の横山正幸会員より第2号発刊をできるだけ早急に行うとともに、第3号についても、創刊号・第2号を継承・発展させ、より中身の濃いものとしていくことが報告されました。

今後の研究活動については、研究担当の上野景三会員から、これまでの研究活動と、新たに本学会会員の研究者を中心に14名で組織されたメンバーによる、科学研究費・研究プロジェクト「子どもの心と体の主体的発達を促進する生活体験学習プログラム開発に関する研究」によって、より生活体験学習研究の深化を目指すことが報告されました。

さらに実践交流会事務局の九野坂明彦会員から、本年度第4回実践交流会の期日を10月12日(土)、場所を庄内町生活体験学校とすること、そしてワークショップの柱を1本とし、中身を充実させることによって、実践交流会をさらに発展させていくことが報告されました。最後に、本年度は選挙年で新体制への移行についても考慮しつつ、より学会員・活動の拡充と充実を目指すことが確認され、総会は終了しました。

(2) 第1、2回理事会における決定事項

(通信第12号掲載)

第1回理事会が、5月4日13:30から九州大学社会教育研究室で開催されました。そこで以下の事項が、

報告・決定されました。

選挙管理委員会について協議され、選挙管理委員長として、古賀倫嗣会員（熊本大学）が承認されました。

実践交流会実行委員会の協議事項について報告され、実践交流会実行委員は、理事だけではなく、幅広く募ること、基本的テーマを「通学合宿」と「子育て」にすることが決定されました。

第2回理事会が、6月30日13:30から九州大学社会教育研究室で開催されました。そこで以下の事項が、報告・決定されました。

第4回実践交流会について、進行計画、事例発表の候補について報告されました。

事務作業の円滑化のために携帯電話が購入され、7月1日(月)から利用可能であることが報告されました。(携帯電話090-4343-6482) 今後、学会事務局への連絡は、一般電話090-642-3128、かかりにくい場合・緊急の場合は、携帯電話090-4343-6482(受付時間: 平日10:00-18:00) へお願いします。

事務局より、会員数152名、会費納入者数76名という状況(2002年7月1日現在)が報告されました。

会員の動きとして、山田明会員(自由ヶ丘高等学校)、坂口大輔会員(大牟田市教育委員会事務局教育部生涯学習課)の2名が新入会員として承認され、また、3名の退会者があったことが報告されました。

学会寄贈図書として、大分県教育庁生涯学習課「平成12・13年度のびのび共同生活体験モデル事業報告書」、玉井正明・玉井康之著『少年の凶悪犯罪・問題行動はなぜ起きるのか—事件から学ぶ学校・家庭・地域の役割とネットワーク』ぎょうせい2002年4月10日初版発行が、報告されました。

(3) 第3回理事会における決定事項

(通信第13号掲載)

第3回理事会が8月11日13:30から九州大学社会教育研究室で開かれました。そこで以下の事項が、報告・決定されました。

選挙管理委員会から、新たに組織検討委員会を開き、今後の学会組織体制について検討していくことが提案され、承認されました。

紀要編集委員会より、学会誌第2号を8月下旬に発刊すること、第3号の発刊予定を来年3月末とし、エ

ントリー締め切りを8月末日とすることが報告されました。

実践交流会準備委員会より、第4回実践交流会のプログラム決定について報告され、承認されました。

事務局より、会員数152名、会費納入者数88名(2002年9月11日現在)が報告されました。

(4) 第4回理事会における決定事項

(通信第14号掲載)

第4回理事会が、10月12日(土)庄内町立生活体験学校で開かれ、以下の事項が報告・決定されました。

事務局より90名(58%)の会費納入状況が報告され、選挙に向けて会費納入を増やして行くことが承認されました。

第4回実践交流会の参加人数が報告されました。

組織検討委員より、今後の学会組織体制や学会誌・通信の工夫について提案があり、協議されました。

紀要編集委員の交代について報告があり、小松理事から相戸理事に交代することが承認されました。

第4回研究大会委員長として、上野理事が選出され、承認されました。

(5) 第5回理事会における決定事項

(通信第15号掲載)

2002年11月23日(土)に福岡県社会教育総合センターにおいて、第5回理事会が開催されましたので、以下、協議・決定事項についてお知らせいたします。

事務局より、会員数155名、会費納入者数93名、新入会員として東郷美由紀会員(福岡教育大学大学院)が報告され、承認されました。選挙に向けて会費納入率を高めていくことが報告され、承認されました。

学会通信担当より、学会通信第14号が11月10日に発行されたことが報告されました。

第4回実践交流会について、実践交流会担当理事より、会計報告と実践交流会の成果と課題、参加者の声等について報告されました。

第4回研究大会開催要項について、研究大会実行委員長の提案に対して協議され、テーマ、期日、日程、場所、参加費等、以下の通り大まかな枠組みが決定しました。

テーマ「奉仕活動・体験活動」の原理を問う—生活体

験学習学の構築をめざして一

期 日 2002年3月1日

場 所 福岡県立社会教育総合センター

日 程 分科会—総会—シンポジウム—懇親会

参加費 一般1,500円、学生1,000円

組織検討委員会から、選挙の告示について第15号通信と同封することが報告されました。

紀要編集委員会から、学会誌第3号のエントリー状況と、原稿受理状況、第2号学会誌の献本先について報告されました。

その他として、「生活体験学習指導主事資格」を作る案が出され、今後検討していくことが承認されました。

(6) 第6回理事会における決定事項

第6回理事会が、12月21日15:00から九州大学社会教育研究室で開催されました。そこで以下の事項が、報告・決定されました。

研究大会実行委員長より、シンポジウムパネリストとして、生活体験学習学の隣接領域にある学会の研究者である、ボランティア学会の辻浩氏が提案され承認されました。学校教育現場のパネリストについては、今後検討していくことが報告されました。また研究大会広告担当として九野坂会員が承認されました。さらに研究大会開催要項を1月までに作成することが決定しました。

選挙管理委員会より、役員選挙の日程について、1月20日に投票を締め切り、1月27日に開票、3月1日の総会で当選者を発表することが報告され、承認されました。また組織検討委員会より、日本生活体験学習学会会則第11条の検討について、学会通信第14号で組織検討委員会からのお知らせを掲載したが、会員からの意見はなかったことが報告されました。

紀要編集委員会より、学会誌第3号の入稿状況と今

後の予定について報告され、承認されました。

研究担当委員会より、科研費調査の進捗状況が報告され、第4回研究大会で発表することが承認されました。

(7) 第7回理事会における決定事項

第7回理事会が、1月26日10:00～に九州大学社会教育研究室で開催されました。そこで以下の事項が、報告・決定されました。

事務局より、会員数156名、会費納入者100名が報告され、承認されました。会員の動きとして、緒方泉会員（九州産業大学）が新入会員として承認され、また、1名の退会者があったことが報告されました。

研究大会実行委員長より、シンポジウムにおける学校教育関係者のパネリストとして、新藤昭典氏（厳木高等学校）が提案され、承認されました。また、各分科会司会について協議され、決定しました。

組織検討委員会より、会則に〈付則〉を設ける案が提案され、提案理由について報告されました。これを理事会議案として第4回総会において提案することが決定しました。

紀要編集委員会より、学会誌第3号の進捗状況が報告され、入稿状況の報告と、第4回研究大会までに発刊することが報告され、承認されました。

通信担当より、生活体験Q&Aを今後、様々な実践者に投稿していただくことが提案され、承認されました。

研究担当委員会から、科研費調査報告書を3月10日までにまとめることが報告されました。

その他に、日本生活体験学習学会として定期的に県別集会を行う案が出され、承認されました。また、学会のホームページを作成することが承認されました。

(東内瑠里子)